

8 研究指導プロセス概要

経営学専攻【博士前期課程（修士課程）】

時期	項目	内容・目的等
入学前 (入学試験時)	指導教員決定	<ul style="list-style-type: none"> ●面接試験〔試験官：指導希望教員（第一志望あるいは第二志望）2名＋1名の教員〕により、研究希望領域および研究計画案を確認 ●研究計画案と指導教員研究領域とのマッチング確認 ●研究科委員会にて入学試験可否と指導教員決定
1 年 次	4月上旬	研究科主催ガイダンス ●教員紹介および大学院での学修に関する基本的事項の説明【1時間程度】
		個別履修指導・相談 ●上記ガイダンスの後、指導教員からの個別履修指導（履修相談） ※履修登録および変更には、指導教員の承認が必須 ●研究活動に向けた参考文献・資料等の確認と紹介
	(1～2年次) 指導教員の演習科目を履修	<ul style="list-style-type: none"> ●修士課程2年間にわたり、指導教員の「論文指導演習（演習科目）」を履修 ・研究計画の作成と提出 ・教員指導の下で研究活動進行 ・修士論文の執筆方法等の確認 なお、指導教員による研究指導は、学生の状況により、演習科目以外の時間でも随時行われる
	5月下旬	「修士論文プロポーザル」参加 修士課程2年次生が報告 ●修士課程2年次生による報告会に参加（発言・質問可） ・自身の研究活動の参考に ・自身が2年次に行うことを具体的にイメージする ・他者の研究内容・方法・成果を知り、知識や考えを深める
	11月～12月	修士論文テーマ決定 ●修士論文テーマを決定し、指導教員に報告 （この時期に決定できない場合は、遅くとも3月末までには決定する）
	11月下旬	「修士論文報告会」参加 修士課程2年次生が報告 目的とねらいは、5月下旬の「修士論文プロポーザル」と同様
12月中旬	「経営学研究科OB報告会」参加 ●経営学研究科修了生（博士学位授与者など）が、在学時の経験・本人の近況・後輩へのアドバイスなどについて説明・報告 ・学修・研究活動・進路選択の参考に	
2 年 次	4月上旬	研究科主催ガイダンス 1年次と同様。変更点を中心に説明【1時間程度】
		個別履修指導・相談 ●上記ガイダンスの後、指導教員からの個別履修指導（履修相談） ※履修登録および変更には、指導教員の承認が必須 ●修士論文テーマの確認 ●研究の進捗状況確認（課程修了に向けたスケジュールの確認）
	5月下旬	修士論文プロポーザル ●レジュメの提出（事前） 基本文献3冊のまとめ（各3,000字程度）を事前に指導教員に提出 ●発表および質疑応答 ・参加者：研究科教員・修士課程学生・博士後期課程学生 ・評価者：研究科教員（指導教員含む） ・プレゼンテーション【15～20分】：プレゼンテーションソフト（パワーポイント等）および配付文書（レジュメ等）を用いて発表。その時点での研究の進捗状況・成果および疑問点・今後の研究計画等について説明 ・質疑応答【15分～20分程度】：幅広く教員および参加者（他の大学院学生）からの評価・助言・指導を受ける ●修士論文の提出資格審査 ・教員間で協議を行い、プレゼンテーションおよび質疑応答において一定水準に達していると判断された学生は修士論文の提出資格を得る ※一定水準に達していないと判断された場合には、後日（7月下旬または9月中旬）に再度報告を行わなければならない（評価者は教員3名（指導教員含む）。再度の報告においても一定水準以下であった場合には修士論文の提出資格を失う）。 ※文字数や時間は目安であるため、変更される場合がある。
	11月下旬	修士論文報告会 （プロポーザルで論文提出資格を得た学生のみ実施） ●研究科は、学位審査委員会を組織（主査1名・副査2名の決定。主査は原則として指導教員が務める） ●修士論文草稿の提出（事前） ・修士論文の草稿3冊を事前に指導教員に提出 ●発表および質疑応答 ・参加者：研究科教員・修士課程学生・博士後期課程学生 ・評価者：教員3名（主査1名・副査2名） ・プレゼンテーション【15～20分】：修士論文の概要および疑問点等 ・質疑応答【15分～20分程度】：教員および参加者（他の大学院学生）から、主に改善点の指摘等を受ける
12月～ 1月上旬	修士論文加筆・修正⇒完成へ ●修士論文報告会において指摘された要改善点の加筆・修正 ●論文原稿の完成 ●指導教員による論文原稿の確認	

時 期	項 目	内 容・目的等	
2 年 次	1月上旬	修士論文提出	●定められた期間内に、修士論文および学位申請書類を大学院事務課に提出
	1月中旬	修士論文受理	●提出論文の受理（1月経営学研究科委員会にて）
	2月上旬	最終審査	●論文審査および最終試験ならびに学力確認の実施 ・審査員および試験官：主査1名・副査2名 ・最終試験は口頭試問により実施 （20分のプレゼンテーションと30～40分の質疑応答） ・学位審査委員会での評価は、審査員3名の合議により決定
	2月中旬	可否決定	●学位審査委員会が審査結果報告書を作成し、経営学研究科委員会に提出 ●経営学研究科委員会が報告に基づき審議し、可否を決定

※上記は予定であり、内容及び時期を変更する場合がある

※学位審査の詳細については「中京大学大学院経営学研究科修士学位審査に関する内規」に定める。

経営学専攻【博士後期課程】

時 期	項 目	内 容・目的等	
入学前 (入学試験時)	指導教員決定	●面接試験〔試験官：指導希望教員（第一志望あるいは第二志望）2名＋1名の教員〕により、研究希望領域および研究計画案を確認 ●研究計画案と指導教員研究領域とのマッチング確認 ●研究科委員会にて入学試験可否と指導教員決定 ●希望があれば研究科委員会にて副指導教員を決定	
4月上旬	研究科主催ガイダンス	●教員紹介および大学院での学修に関する基本的事項の説明【1時間程度】	
	個別履修指導・相談	●上記ガイダンスの後、指導教員からの個別履修指導（履修相談） ※履修登録および変更には、指導教員の承認が必須 ●研究活動に向けた参考文献・資料等の確認と紹介 ●研究テーマの確認	
(1～3年次) 指導教員（副指導教員）の演習科目を履修		●博士課程3年間にわたり、指導教員の演習科目を履修 ・研究計画の作成と提出 ・教員指導の下で研究活動進行 ・博士論文の執筆方法等の確認 ・研究テーマの確認 ・進捗状況の確認 ・学会での研究発表や学術雑誌への投稿に向けた指導 ※指導教員による研究指導は、学生の状況により、演習科目以外の時間でも随時行われる ※副指導教員がいる場合には、副指導教員の演習科目も履修し、指導を受ける	
1・2 年 次	5月下旬	「修士論文プロポーザル」参加 修士課程2年次生が報告	●修士課程2年次生による報告会に参加（発言・質問可） ・他者の研究内容・方法・成果を知り、知識や考えを深める ・教員のコメントを聞くことで、自身の研究の参考にする ・下級生にアドバイスすることを通して、自身の研究を再確認する
	10月下旬	「博士論文中間報告会」	●発表および質疑応答 ・参加者：研究科教員・修士課程学生・博士後期課程学生 ・評価者：研究科教員（指導教員含む） ・プレゼンテーション【15～20分】：プレゼンテーションソフト（パワーポイント等）および配布文書（レジュメ等）を用いて発表。その時点での研究の進捗状況・成果および疑問点・今後の研究計画等について説明 ・質疑応答【15分～20分程度】：教員および参加者（他の大学院学生）から幅広く評価・助言・指導を受ける ・『中京経営紀要』への投稿の執筆準備を兼ねる ※時間は目安であるため、変更される場合がある
	11月下旬	「修士論文報告会」参加 修士課程2年次生が報告	●修士課程2年次生による報告会に参加（発言・質問可） ・他者の研究内容・方法・成果を知り、知識や考えを深める ・教員のコメントを聞くことで、自身の研究の参考にする ・下級生にアドバイスすることを通して、自身の研究を再確認する
	12月中旬	「経営学研究科OB報告会」参加	●経営学研究科修了生（博士学位授与者など）が、在学時の経験・本人の近況・後輩へのアドバイスなどについて説明・報告 ・学修・研究活動・進路選択の参考にする
	1月中旬	「中京経営紀要」投稿	●『中京経営紀要』に原則として投稿 ・1年間の研究の成果を論文の形にまとめ、博士論文の基礎とする